

2021/11/8

商品企画部
中島 三養子

マーケット・フォーカス

商品：原油

OPECプラス追加増産せず、原油価格は高止まりか

- OPEC プラスの増産ペース維持から、原油価格は高止まりに
- 米戦略備蓄の放出なら短期的に上昇一服か、イラン核合意協議再開ならさらに上値抑制に
- WTI 原油先物価格、2022年3月までの想定レンジは1バレル=65~100ドル

OPECプラスの増産ペース維持から高止まりに

足元のWTI原油先物価格は1バレル=80ドル前後での推移。10月末にバイデン米大統領は、石油輸出国機構(OPEC)と非加盟産油国で構成するOPECプラスに対し、増産圧力を強めた。しかし、11/4に開催されたOPECプラスの閣僚級会合では現行の毎月日量40万バレルの増産維持を決定。足元では米原油在庫増や米戦略備蓄の放出観測を織り込み、原油価格は一時反落したものの高止まりに。

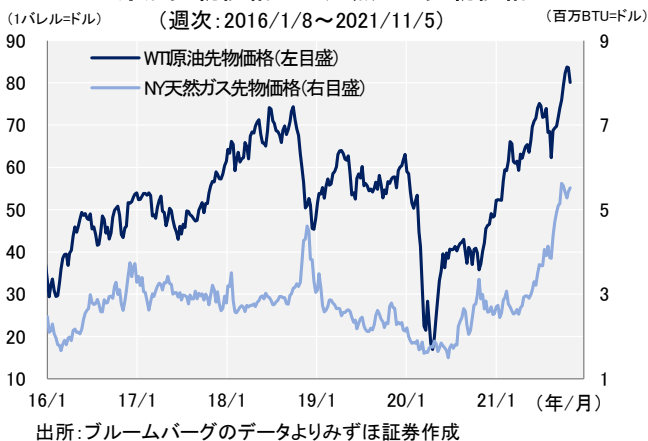
米戦略備蓄の放出なら上昇一服か、イラン核合意協議再開も

中国はディーゼル油とガソリンの国家備蓄放出を表明。今後は米国等も戦略備蓄を放出する可能性があるほか、11月下旬にイラン核合意の協議が再開すれば、原油価格の上値追いは一服か。一方、12月もOPECプラスが増産維持を決定したことから供給不足懸念は継続しそうだ。今年は北半球でのラニーニャ現象から厳冬が予想され、暖房需要も高まりつつある。また、米国ではワクチン接種対象者に入国制限等を緩和する動きもみられ、今後ジェット燃料需要等の拡大も見込まれている。なお、欧州やアジアでは天然ガス価格の高騰から電力不足が深刻な状況となっており、天然ガスからの代替需要の高まりが原油高につながっている。今後もエネルギー高が素材価格等に波及するとみられ、インフレ懸念は長引きそうだ。

2022年3月まで 1バレル=65~100 ドルを予想

当面の原油市場は冬場を迎えて需給がひっ迫するとみられる。以上のことから、2022年3月までの想定レンジを1バレル60~90ドル→65~100ドルに上方修正する。

WTI原油先物価格とNY天然ガス先物価格



CRB原材料価格指数と米ブレイクイーブンインフレ率



この資料は投資判断の参考となる情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資に関する最終決定はご自身の判断でお願いいたします。また、本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成したものです。その正確性、完全性を保証したものではありません。本資料に示された意見や予測は、資料作成時点での当社の見通しであり今後予告なしに当社の判断で随時変更することがあります。最終ページに金融商品取引法に係る重要事項を掲載していますのでご覧ください。

金融商品取引法に係る重要事項

- 当社取り扱いの商品等(外貨建商品等も含む)にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料(投資信託の場合は銘柄ごとに設定された購入時手数料および信託報酬等の諸費用等)をご負担いただきます。債券を当社との相対取引によりご購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。
- 各商品等には価格の変動や発行者の信用状況の悪化等により損失が生じるおそれがあります。
- なお、債券の利金・償還金の支払いについて、発行者の信用状況等によっては、支払いの遅滞・不履行が生じるおそれがあります。
- 外貨建商品等の売買等にあたり、円貨と外貨を交換する際には、外国為替市場の動向をふまえて当社が決定した為替レートによるものとします。また、売却時等の為替相場の状況によっては為替差損が生じ、損失を被るおそれがあります。
- 商品ごとに手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面や目論見書またはお客さま向け資料等をよくお読みください。

商号等：みずほ証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第94号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

広告審査番号：MG5690-211108-06